

物流総合効率化計画概略図

計画

現行

各社それぞれが、別拠点から同一エリアへの配送を行っている。また、幹線便の一部も同じ発地から複数台輸送しており、ムダが発生している。

各社の配送拠点を集約することによって、幹線便と配送便の協業化が可能となり、車両台数の削減につながり、積載率の向上と距離の短縮が実現、CO²の19%削減と手待ち時間の70%短縮を図る。

